

第 16 回サイバーセキュリティ国際シンポジウム

デジタル社会における国家安全保障、経済安全保障、社会保障を支える サイバーセキュリティ

～AI、PQC 等の先端技術を踏まえたグローバルな多国間官民連携アクション～

主催：慶應義塾大学 KGRI プロジェクト CCRC/CSRC、
INCS-CoE、MITRE Corporation、笹川平和財団

2026 年 10 月 27 日（火）、28 日（水）、29 日（木）、30 日（金）9:00～18:00（対面式）

慶應義塾大学三田キャンパス（東京）

登録は 9 月頃を予定しますので、後日メールにて連絡します

Version 4

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）のプロジェクトであるサイバー文明研究センター（CCRC）およびサイバーセキュリティ研究センター（CSRC）は、第 16 回サイバーセキュリティ国際シンポジウムを慶應義塾大学三田キャンパスで開催する。本シンポジウムの目的は、国家安全保障、経済安全保障、社会保障の分野を横断的に検討する。テーマとして、サイバー技術や生成 AI の負の利用、地球上の人類文明、地政学的紛争、ランサムウェアの影響、量子技術、宇宙、日常生活におけるデジタル技術などについて議論する。各国、地域、G7、G20 間のサイバーセキュリティにおける格差や提携について議論し、格差に対処するための行動や、世界規模で信頼される多国間の官民連携を構築するための行動へとつなげていく。

国家安全保障の分野では、国際情勢で AI 性能の高度化によるハイブリッド攻撃や波及攻撃が続いている。Five Eyes、AUKUS、Quad、NATO など複数の二国間・多国間組織が、国家安全保障上の懸念に取り組んでいる。各国が国家安全保障戦略を固めつつある中、日本でもサイバー対処能力強化法の 10 月施行や国家情報局の今夏以降での構築など防衛態勢が整いつつある。

経済安全保障の分野では、安心・安全な重要インフラ事業者は、社会インフラを提供する信頼されるプレーヤーでなければならない。AI 等の技術革新・開発・製造や資源調達などのグローバルなサプライチェーンは、国家の存亡に関わる重要な機能を担う。ここでは、管理された非機密情報を含むセキュリティクリアランス制度や、国家サイバーセキュリティ戦略と官民連携が必要である。

社会保障の分野では、「Data Free Flow with Trust 2.0（DFFT 2.0）」を達成するための国際相互承認が重要であり、G7 と G20 が支持する OECD の「官民デジタルパートナーシップのための国際協定（IAP）」が稼働している。さらに、国や地域ごとの個人情報保護法は、市民や主要な意思決定者のプライバシーにとって重要である。データ利活用とデータ保護のバランスが重要である。

政府、産業界、学術界から、講演者やパネリストを招聘する。

- 日本政府閣僚、日本の各省庁
- 各国大使館：米国、英国、EU、オーストラリア、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、ポルトガル、エストニア、リトアニア、アイルランド
- 国連、経団連、大手企業、元・現国家安全保障担当幹部

後援（調整中）：日本の各省庁、各国大使館、関連団体、民間企業、大学など

オンライン登録とプログラムのウェブサイト：URL: <https://symp.cysec-lab.keio.ac.jp/2026oct/>

※以下は予定

■Day 1 : ハイライト

日本政府からの閣僚級の講演

世界各国からの講演

大使館からの講演

日本の各省庁からの講演

■Day 2 : 国家安全保障のハイライト

テーマ : PQC, 国際間における先端技術

Theme: PQC, International Emerging Technologies

本パネルでは、耐量子暗号（PQC）、量子技術、NEXUS 等の新興技術を巡る国際的な政策・標準化・ルール形成を取り上げる。国家安全保障、経済安全保障、技術覇権、信頼性の観点から、各国の政策動向と国際連携のあり方を議論する。

テーマ: インテリジェンス、国家情報局

Theme: Intelligence, National Intelligence Agency

本パネルでは、サイバー脅威インテリジェンスの共有、国家情報機能の強化、官民連携のあり方を取り上げる。政府、重要インフラ事業者、民間企業が実効的な情報共有を実現するための制度と運用について議論する。

テーマ: 国家安全保障（笹川平和財団 提供）

Theme: National Security (Presented by Sasakawa Peace Foundation)

テーマ: 能動的サイバー防御

Theme: Active Cyber Defence, SBOM の活用

本パネルでは、能動的サイバー防御を実運用するための制度、体制、インテリジェンス連携を取り上げる。状況認識、アトリビューション、法執行、防衛、情報機関の連携を含め、国家レベルの対応能力強化について議論する。

テーマ: ソブリンクラウド

Theme: Sovereign Cloud

本パネルでは、国家クラウド、政府クラウドを含むデジタル基盤のあり方を取り上げる。クラウド主権、データ保護、重要インフラ、防衛、民間クラウドとの役割分担などを踏まえ、信頼できるクラウド基盤の構築と国際連携について議論する。

■Day 3 : 経済安全保障のハイライト

テーマ: Enhancing Technology, PETs

Theme: Enhancing Technology, PETs

本パネルでは、PETs、機密コンピューティング、暗号技術、データクリーンルーム等を取り上げる。重要データを保護しながら活用するための技術、制度、国際相互運用性について議論する。

テーマ: AI

Theme: AI

本パネルでは、生成 AI・エージェント AI の社会実装が経済安全保障、サプライチェーン、重要インフラ、研究開発へ与える影響を取り上げる。AI の安全性、信頼性、ガバナンス、国際標準や国際協力を通じた競争力強化について議論する。

テーマ: 経済安全保障 (笹川平和財団 提供)

Theme: Economic Security (Presented by Sasakawa Peace Foundation)

テーマ: 重要インフラ・電力

Theme: Japanese Critical Infrastructure, i.e. Energy

本パネルでは、電力・エネルギー分野を中心に、重要インフラのサイバーセキュリティと供給網の強靱化を取り上げる。レジリエンス向上と官民連携のあり方について議論する。

テーマ: 重要インフラ・半導体

Theme: Critical Infrastructure, i.e. Semiconductor

本パネルでは、半導体産業の設計・製造・装置・材料・先端パッケージングを含むサプライチェーン全体を取り上げる。製造現場のサイバーセキュリティ、知的財産保護、国際協力について議論する。

■ Day 4 : 社会保障のハイライト

テーマ: AI 時代における個人の「同意」の意義

Theme: The Significance of Individual “Consent” in the Age of AI

本パネルでは、データ利活用法と個人情報保護法を中心とした法制度を取り上げる。データ流通の促進とプライバシー保護を両立する制度設計や、国際的な相互運用性の確保について議論する。

テーマ: デジタルニッポン、デジタル社会の実現に向けた重点計画

Theme: Digital Nippon, Priority Plan for Realizing a Digital Society

本パネルでは、デジタル社会の実現に向けた重点計画とデジタルニッポンの政策課題を取り上げる。行政 DX、マイナンバー、ガバメントクラウド、AI・データ利活用、セキュリティとトラストを一体として推進するための実装課題を議論する。

テーマ: デジタルトラスト基盤

Theme: Digital Trust Infrastructure

本パネルでは、デジタルトラスト基盤を支えるデータスペースの社会実装を取り上げる。バッテリーパスポート、CBAM、金融、医療などのユースケースを通じて、産業横断的なデータ流通、相互運用性、デジタルトラスト基盤の実現について議論する。

テーマ: パブリックトラスト、ISO 標準(Trusted List)

Theme: Public Trust, ISO (Trusted List)

本パネルでは、電子署名、電子証明書、トラストサービスを支える制度と国際標準を取り上げる。Trusted List、認定制度、監査、ISO 標準を通じた国際相互運用性について議論する。

テーマ: デジタル・アイデンティティ・ウォレット、電子属性証明書

Theme: Digital Identity Wallet, Electronic Attestation of Attributes

本パネルでは、デジタルアイデンティティ・ウォレットと電子属性証明書の制度・技術・実装を取り上げる。行政・民間サービス・越境データ流通を支える信頼基盤と国際相互運用性について議論する。